
共 通 分 野

教養科目・体育科目・外国語科目

共通分野

教養科目

教授 新保 良明

学問領域の融合が進む今日では、自分の専門とは異なる様々な学問領域への興味を一生もち続けることがますます大切になっている。また、現代社会は複雑で、自分の専門とする学問領域外の世界を理解する能力がなければ、異なる分野の人々とコミュニケーションを図り、お互いに理解し共生することはできない。

そこで、大学では、各自が専門とする分野の学問を深く探究し、その道の専門家となることは当然であるが、同時に異なる分野にも広い興味と共感をもち続けられる高度の教養人となることも目指してほしい。専門の学問はもちろん、宇宙、世界、社会、歴史などの人間をとりまく環境や、われわれ人間自身についての深い知識や洞察力を身につけることにより、はじめて正しい批判力や判断力をもち、自立した人間になることができるからである。教養人とはこのように真に自立した人間を指し、大学の教養科目を学ぶことはそのような教養人になるための第一歩である。

しかし、断片的な知識をもちさえすれば、教養人になれるわけではない。教養人になるには、そして教養人であり続けるには、多様な知識を基にさらに主体的に学び、考え、判断する作業をし続けなければならない。技術者を目指す学生諸君だからこそ、社会科学や人文学、人間科学の各領域に広い関心をもってほしい。今日の情報化社会には断片的な知識が溢れている。それらの知識や情報を統合し、主体的に批判し選別できる能力は、教養科目を学ぶことを通じて身につけることができるからである。そして社会的現象を多角的・多面的に見る目をぜひ養ってほしい。

工学部、知識工学部が設置している教養科目については、本要覧を参考に自分の好みに従い選んでいただきたい。特色ある教養ゼミナールを含め、なるべく多くの科目を選択し、技術者とともに教養人になることも目指してほしい。なお、大学は高等学校とは異なり、主体的に自ら学ぶ場であることを忘れないように。

本年度入学生から、都市生活学部(等々力キャンパス)開講の教養科目を履修することが容易になった。他キャンパスの科目履修により、学生間の交流も進むことが期待される。

共通分野

体育科目

教授 渡辺 一郎

近代文明の急速な発展は、あらゆる面で人間の生活を便利にしている一方で、人間を動かない方向に押しやってもいる。例えば、労働形態の変化、モータリゼーション、家庭生活の電化等により、我々は日常生活で体を動かす機会、特に「歩行」という人間が生きていくうえで必要不可欠な基本運動を少しずつ失ってきている。このことは単なる身体機能の低下にとどまらず各々の心身にも多くの歪をもたらし、精神・神経障害、運動機能障害、循環器障害、退行性変化更には代謝異常へと結びつく要因となっている。これらの多くは運動不足症候群とも呼ばれ憂うべき現象をもたらしている。このような現状を踏まえ、大学での体育は、身体の教養や身体運動文化の積極的な獲得を目指している。

大学時代は自己のライフスタイルを確立する大切な時期であり、ライフスタイルの確立の根本には健康な体が位置するであろう。スポーツ・健康論(教養科目)やゼミナール(教養科目)を通して運動と健康や体力との関わりを認識し理解するとともに、実技(スポーツ)を通してダイナミックな喜び(共感能力)を実感し、人間がぶつかり合って関係を創り出す社会的能力を身につけてほしい。更には、ここでの経験が生涯にわたって健康的な生活を自律的にしかも積極的にやっていく礎となればと願っている。

外国語教育の目標は国際感覚を養成するため、他国の多様な文化を積極的に理解すると同時に、わが国の文化や自己の考えを発表する能力を身につけた人材を育成することにある。この目標を達成するため、在学の四年間を通じて学習ができるようにすると同時に、意志伝達的手段として言語を活用することをめざして、実践的に4つの技能を学ぶカリキュラム編成を特徴としている。入学時に英語の基礎力をみるために全員がTOEIC Bridge テストを受験する。その成績による習熟度別クラス編成を行う。

英語は1年次4単位、2年次2単位の計6単位が必修となる。その内訳は、1年次前期のStudy Skills と Communication Skills(1)の2単位、1年次後期 Communication Skills(2)と Reading and Writing(1)の2単位、2年次前期の Reading and Writing(2)ならびに2年次後期 TOEIC Preparation の2単位である。

選択科目(応用科目)は1科目で2単位であり、これは卒業要件になっている。全学年にアカデミック・イングリッシュ・セミナー、英語E-learning, Advanced TOEIC, 英語文法, 発音・聴解トレーニング、読解力養成、ニュースを英語で読む、音楽で学ぶ英語、英語でプレゼンテーションなどを履修できる。さらに、オーストラリアのバースにあるカーティン大学英語研修プログラムへの参加で、海外・特別選抜セミナーの単位を修得できる。なお1年次のStudy Skillsでは英語の基礎力を中心に行う。この時期に必ず基礎は復習することが望ましい。これらの科目を積極的に、出来るだけ多く受講することによって英語の読む、書く、聞く、話すことのできる、4つの基本的な技能を伸ばすことを目標としている。なお語学はすべて演習科目なので出席不良は認められない。なお、必修の英語は成績不良などで単位を取得できなかった科目は原則として再履修者専用クラスで再取得することになっている。

また、英検、TOEIC, TOEFL等の検定試験を受験した結果、上級合格者や高得点者のなかで申請した学生に対し、Study Skills, Communication Skills(1), (2), Reading and Writing(1), (2), TOEIC Preparationの受講を免除し、単位を認定する制度も設けている。検定試験の結果で必修の履修科目を大きく変えることが可能になるので、積極的に学内・学外で行われる検定試験にも挑戦してほしい。4年間での検定試験のチャレンジは、就職や社会に出たときの資格として大きな意味を持つ。

英語以外の外国語としてはすべて選択科目であるが、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語、イタリア語、アラビア語が設けられている。英語以外の外国語を知ることは大変大きな意味がある。少人数のクラスで楽しみながらその分野の専門家とともに自分の実力に合った学習環境が整っている。大学は第二外国語を学ぶことができる絶好のチャンスである。ぜひ積極的にクラスに参加してほしい。

言うまでもなく、語学の力は一步一步階段をのぼるように学習を積み重ねてはじめて向上するものであるから、教室での演習に積極的に参加することはもちろんのこと、教室外でも予習、復習に力を入れる必要がある。大学に入ってから語学をマスターしようと思えば、言葉のルールである「文法」の勉強は不可欠である。短期間で言葉のルールを身につけることは外国語学習にとって非常に効率的な方法になる。ある程度の文法のルールを身につけて、実践のためのトレーニングに集中することが重要である。いつでもどこでも勉強できる環境を見つけることができるいろいろなメディアを利用しよう。映画・ドラマ、インターネット、ゲーム、テレビ・ラジオの語学講座、海外旅行、短期留学などを活用することも大切である。言うまでもなく、ことばにはさまざまな人間や文化との出会いがある。わたしたちが身体を使いながら、さまざまな方法を通じて楽しみながら学習の工夫をすることが大切である。

平成25年度 共通分野 教育課程表

○印必修科目

区 分 科目群		系統	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成25年度現在)
						1 年		2 年		3 年		4 年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
共通分野	教 養 科 目	人文学系	哲学(1)		2	2								大野晃徳
			哲学(2)		2		2							大野晃徳
			倫理学(1)		2	2								山本史華
			倫理学(2)		2		2							山本史華
			文化人類学		2		2							鈴木洋平
			視覚芸術史(1)		2	2								岡山理香
			視覚芸術史(2)		2		2							岡山理香
			デザイン概論(1)		2			2						岡山理香
			デザイン概論(2)		2				2					岡山理香
			文学		2	2								秋山義典
			ヨーロッパ文学論		2		2							山西龍郎
			論理学(1)		2	2								谷川卓
			論理学(2)		2		2							谷川卓
			西洋史(1)		2	2								新保良明
			西洋史(2)		2		2							新保良明
			民俗学		2		2							鈴木洋平
			比較文化史		2	2								山西龍郎
			宗教学		2	2								長島大輔
			社会科学系	社会学(1)		2	2							
		社会学(2)			2		2							村井重樹
	経済学(1)			2	2								橋本悟	
	経済学(2)			2		2							橋本悟	
	政治学(1)			2	2								森達也	
	政治学(2)			2		2							森達也	
	国際関係論(1)			2	2								中山裕美	
	国際関係論(2)			2		2							中山裕美	
	日本国憲法			2	2	(2)							大沼友紀恵	
	法学			2	2								大沼友紀恵	
	民法			2		2							大沼友紀恵	
	行政史			2	2								新保良明	
	西洋経済史			2		2							新保良明	
	人文地理学			2	2								高橋洋子	
	現代中国論			2		2							竹茂敦	
	人間科学系	教育学(1)			2	2								角田多加雄
		教育学(2)			2		2							角田多加雄
		スポーツ・健康論			2	2	(2)							渡辺一郎
		心理と生理			2	2								渡辺昭彦
		文化とパーソナリティ			2		2							渡辺昭彦
		学習と動機づけ		2	2								千田茂博	
		発達と教育		2		2							千田茂博	
		栄養と健康		2	2								重田公子	
		日本文化の継承		2		2							榎本宗白	
		食事と食空間		2		2							重田公子	
		現代の疾病と食生活		2			2						未定	

区 分 科目群		系統	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成25年度現在)
						1 年		2 年		3 年		4 年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
共 通 分 野	教養科目	自然・ 情報科学系	人類史		2	2							折茂克哉	
		その他	ボランティア(1)		1								専門学科教員	
			ボランティア(2)		1								専門学科教員	
			教養ゼミナール(1)		2	2	(2)	教養ゼミナールは、6単位まで 「教養科目」区分の卒業要件と して算入できる。						シラバス概要参照
			教養ゼミナール(2)		2	2	(2)							
			教養ゼミナール(3)		2	2	(2)							
	体育科目		基礎体育(1)	○	1	2							体育教室	
			基礎体育(2)	○	1		2						体育教室	
			応用体育(1) *集中授業あり		1			*2	* (2)				体育教室	
			応用体育(2) *集中授業あり		1			*2	* (2)				体育教室	
	外国語科目（英語科目）		Study Skills	○	1	2							秋山義典, 日高正司, 他	
			Communication Skills(1)	○	1	2							秋山義典, ブラウン, 他	
			Communication Skills(2)	○	1		2						秋山義典, ブラウン, 他	
			Reading and Writing(1)	○	1		2						寺澤, 真鍋, 秋間(聖), 他	
			Reading and Writing(2)	○	1			2					寺澤, 真鍋, 秋間(聖), 他	
			TOEIC Preparation	○	1				2				杉本, 三幣, 杉山, 他	
			英語でライティング&プレゼンテーション		2	2	(2)						ブラウン	
			英語 e-learning		2	2	(2)						外国語教室	
			アカデミック・イングリッシュ・セミナー		2	2	(2)						マディーン, ブラウン, ミラー	
			Advanced TOEIC		2	2	(2)						杉山幸子, 松本淳子	
			英語読解力養成		2	2	(2)						稲垣亜希子	
			海外・特別選抜セミナー		2	2	(2)						外国語教室	
			英語文法トレーニング		2	2	(2)						三幣, 日高, 石山(伊)	
			英語発音・聴解トレーニング		2	2	(2)						マディーン, ルール	
			キャリア・イングリッシュ		2	2	(2)						カーンス, ミラー	
			サバイバル・イングリッシュ		2	2	(2)						杉山幸子	
			ニュースを英語で読む		2	2	(2)						白岩英樹	
			スポーツで学ぶ英語		2	2	(2)						阿部達	
			映画で学ぶ英語		2	2	(2)						秋山義典	
			文学で学ぶ英語		2	2	(2)						杉本裕子	
			音楽で学ぶ英語		2	2	(2)						寺澤由紀子	
			Cultural Comparison		2	2	(2)						(平成25年度休講)	
			Modern Society		2	2	(2)						(平成25年度休講)	
			科学技術英語		2	2	(2)						(平成25年度休講)	
			外国語特別講義(1)		2	2	(2)						タッド スタウト	
			外国語特別講義(2)		2	2	(2)						タッド スタウト	

区 分 科目群		系統	授 業 科 目	必 選 の 別	単 位 数	週 時 間 数								担 当 者 (平成25年度現在)
						1年		2年		3年		4年		
						前	後	前	後	前	後	前	後	
共 通 分 野	外国語科目（英語科目以外）		ドイツ語(1)		1	2	(2)							山西, 田村, 中村(仁), 他
		ドイツ語(2)		1	2	(2)							山西, 田村, 中村(仁), 他	
		ドイツ語(3)		1	2	(2)							(平成25年度休講)	
		ドイツ語(4)		1	2	(2)							(平成25年度休講)	
		フランス語(1)		1	2	(2)							田中訓子	
		フランス語(2)		1	2	(2)							田中訓子	
		フランス語(3)		1	2	(2)							(平成25年度休講)	
		スペイン語(1)		1	2	(2)							峯博子	
		スペイン語(2)		1	2	(2)							峯博子	
		スペイン語(3)		1	2	(2)							(平成25年度休講)	
		イタリア語(1)		1	2	(2)							山西龍郎, 他	
		イタリア語(2)		1	2	(2)							山西龍郎, 他	
		イタリア語(3)		1	2	(2)							(平成25年度休講)	
		中国語(1)		1	2	(2)							中川友	
		中国語(2)		1	2	(2)							中川友	
		中国語(3)		1	2	(2)							(平成25年度休講)	
		アラビア語(1)		1	2	(2)							エバ・ハッサン	
		アラビア語(2)		1	2	(2)							エバ・ハッサン	
		アラビア語(3)		1	2	(2)							(平成25年度休講)	
		韓国語(1)		1	2	(2)							長渡陽一, 白雪花	
		韓国語(2)		1	2	(2)							長渡陽一, 白雪花	
		韓国語(3)		1	2	(2)							(平成25年度休講)	

共通分野の卒業必要単位数は下表のとおりとする。

教養科目	10 単位	
体育科目	2 単位	○必修 2 単位
外国語科目	8 単位	外国語科目(英語科目)区分より、○必修 6 単位及び選択 2 単位

履修上の注意事項

教養科目

- (1) 教養科目はすべて選択科目である。大半の科目は1年次から履修できる。しかし、2年次以上など受講上の条件のある科目もあるので授業内容と受講を吟味の上、各学年で2～4科目程度の科目を選択して履修する。3年次までには12単位以上修得するのが望ましい。
- (2) 教養ゼミナールは、名称・内容ともに各教員の積極的な提案によって開講されている。受講者数は少人数を原則とし、学科・学年を問わず履修できるので、学生同士や教員との交流も深めることができ、学生にとって極めて有意義な経験となるであろう。
- (3) 教養ゼミナールは、6単位まで「教養科目」区分の卒業要件として算入できる。
- (4) 教育職員免許状を取得しようとする者は教養科目の「日本国憲法」を必ず履修しなければならない。

体育科目

基礎体育(1)、(2)は、1年次における必修科目である。

応用体育は、2年次以降いずれの学年においても履修することができる全学科共通の選択科目である。授業形態としては半期ごとに行われる通常授業と、休業中に宿泊を伴って行われる集中授業がある。履修順に応用体育(1)、応用体育(2)として認定される。種目等の詳細については、年度始めに科目担当者から指示（掲示またはガイダンス）がある。

外国語科目

- (1) 英語は Study Skills, Communication Skills (1), (2), Reading and Writing (1), (2), TOEIC Preparation の6科目が必修科目である。
- (2) 上記6科目以外の英語科目は選択であり、授業は1時限、半年単位で行われる。履修はいずれの学年でも可能である。なお、環境情報学部で開講される選択英語科目も履修できる。
- (3) 4月のオリエンテーションにおいて TOEIC Bridge による基礎学力調査を行う。その結果を基に1年次の必修科目のクラス分け、履修免除対象者の選定が行われる。その結果は履修登録以前に学生に通知されるので、結果に応じた履修申告を行うこと。なお、必修科目の受講免除を受けた場合は、指定の選択科目 Advanced TOEIC あるいはアカデミック・イングリッシュ・セミナーを必ず履修すること。
- (4) 英語の必修科目を修得できなかった学生は、同年もしくは翌年に開講される該当する科目の再履修クラスで履修すること。
- (5) ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語、スペイン語、イタリア語、アラビア語の授業はいずれも全学科全学年共通に、週1時限半年単位で行われ、いずれの学年でも履修できる。
- (6) (1)、(2)の履修は順序どおり履修することが望ましい。
- (7) 英語必修科目の単位認定について

下記の条件①または②が満たされた場合には、満たした条件に応じて上記(1)の必修科目の履修を免除し、単位を認定する。

どの必修科目が認定されるかはスコア次第であり、外国語共通教育センターの判定委員会が決定する。

[認定条件]

- ① 外国語共通教育センターが実施する基礎学力調査（TOEIC Bridge）において履修免除に該当する学力があると認められる場合（基準 TOEIC Bridge 160点以上のスコア）、スコアに応じて最多1年次必修4科目の履修免除
- ② 以下に示す学内外の検定試験を受験し、上級合格者もしくは高得点者と認められる場合

[認定基準]

下記の基準点を満たしている場合、履修免除の対象となる。

- (a) TOEFL 試験において500点（PBT）、173点（CBT）、61点（IBT）以上のスコア
- (b) TOEIC 試験において570点、TOEIC Bridge 160点以上のスコア
- (c) 英検準1級以上の合格者

[手順]

学期初め 1週目	該当学生はスコアカード、または証明書を用意して外国語共通教育センターへ申請する。 (入学時の学内 TOEIC Bridge 試験のスコアは申請不要である)
↓	
学期初め	外国語教室の判定委員会がスコアや証明書をもとに成績判定を行い、申請者に通知する。
↓	
成績確定日	申請者は該当する履修免除科目の単位が取得できているかを成績表で確認する。

* なお、学期中に検定試験等を受験して、受講科目の免除の条件を満たした場合は、学期中でも申請して該当科目の受講を免除されることがある。

